

壁紙施工要領書 14
- kioi・ガラスビーズ -

【該当品番】(2018-2022 Lilycolor Materials)

LMT-15244～15253

■下地調整

- ・施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために、下地はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- ・下地と同色の樹脂入りのパテを使用してください。強度の弱いパテはハガレの原因になります。
- ・湿式工法による下地（コンクリート、モルタルなど）や、パテ・シーラーを施した場所は十分に乾燥（水分 11%以下）していることを確認してください。未乾燥状態での施工は壁紙の変色、かびの発生を招くことがあります。
- ・接着性の悪い下地（ケイカル板、粉吹き下地、ペンキ下地、化粧板など）には必ずシーラーを塗布してください。下地を補強し壁紙のハガレ、目開きを防ぎます。

■接着剤

- ・比較的重量がある材料です。接着剤は原液タイプをお薦めします。
希釈タイプ使用の場合は、でん粉系の接着剤を使用し、施工環境によりエチレン酢ビ系ボンドを 10～20%程度混合し、糊：水＝10：6 程度を目安に多めに塗布してください。
（水分の多い薄い糊の場合、壁紙が糊自体を吸い込んでしまい、接着力が低下します。水分を余分に吸い込むことで伸び切るまでの時間が長くなったり、ふくれの原因にもなります。）

■養生・オープンタイム

- ・接着剤塗布後は、うませ時間を 5～10 分程度、施工可能期間 60 分以内を目安に作業を進めてください。
- ・接着剤塗布後はタタミジワを防ぐためにも、大きくたたみ上積みは避けてください。

■なで付け、ジョイント

- ・商品自体が非常に硬いので、ジョイントは突き付け施工にて行なってください。重ね裁ち（ダブルカット）施工の場合には必ず下敷き等を使用してください。
- ・ジョイントが目立ちやすいので、カットする際、カッターは薄刃の物を使用し、こまめに替えて常に鋭利な状態で使用してください。
- ・なで付けは、表面にキズが付かないよう柔らかい刷毛を使用し、ていねいに行なってください。ローラーはウレタン製のものを使用してください。
- ・復元力がないので、表面形状のつぶれやツヤ、折れ目や折れジワについては、十分に注意してください。
- ・壁紙表面に水や接着剤が付着すると変色の原因にもなります。付着した場合は直ちに拭き取るようにしてください。

■商品特性

- ・使用しているガラスビーズが硬いため出隅部分が丸くなります。あらかじめご了承ください。

■施工後

- ・施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。特に、冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。目開き、はがれの原因になります。